

第2学年生活科「支えてくれた人に成長と感謝を伝えよう ～これまでのわたし これからのわたし～」

学習指導者 河口 美穂

これまでの思い出を振り返り、自分の成長を感じた子供たちは、もっと成長を見付けたいと思いを高め、「これまでの思い出を集めて成長を見付けよう」と目標を設定しました。また、成長の理由を考えたことで、周りの人の支えがあったことに気付き、支えてくれた人に成長と感謝を伝えたいと思いを高め、「支えてくれた人に自分の成長と感謝を伝えよう」と目標を再設定しました。

支えてくれた人に伝えたい成長を選ぼう

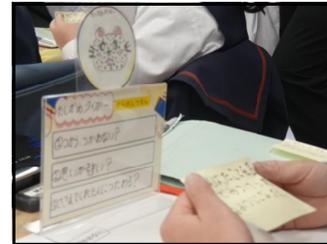
【見通し】

初めに、単元計画を基に単元のゴールや既習事項を確認し、学習課題を設定しました。次に、解決の方法として「自分の考えをパワーアップさせるにはどうすればよかったかな」と問いかけ、「今することに合っているか考えを見直す」という解決の方法を想起しました。そして、教師のモデルを基に、①思いが強いもの②支えてくれた人のおかげが伝わるものの二つの視点で考えるとよいことを捉えました。その後、たくさんの成長カードから、「支えてくれた人に伝えたい成長をカードを動かしながら選ぶ」という見通しをもちました。



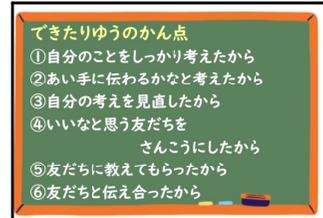
【行動】

前時に作成した成長カードを、たしかめくん（自分の考えを整理する際に使う教具）に話し掛けながら発表に使うかどうか吟味していきました。成長カードを全て動かし終わると、見通し場面で確認した二つの基準を手掛かりに再度発表したいものかどうか見直しました。その後、ペアになり、発表するかどうかわからない成長カードについて相談し合うことで、自分が伝えたいカードを再考しました。



【振り返り】

振り返りの視点「①本時できたこと②その理由」を確認しながら振り返りました。その中で、「支えてくれた人に伝えたい成長を選ぶことができた」や「発表で『使う』が悩んでいたけど、相談したおかげで選ぶことができた」など、見直す基準を使って考えることよさや友達と伝え合うことよさを捉えていました。



成果と課題

○前時に思い出年表を振り返りながら、昔と今の自分を比べて成長をカードにまとめていたため、「思いが強いもの」として、自分の思い出を想起しながら発表として「使う」かどうか選びやすくなっていた。
▲誰に伝えたいのか伝える相手が決まっていなかったため、見直す基準②を使ってカードを選びにくい様相があった。相手意識を明確にしておくことで、よりその人に伝えるべき成長かどうか吟味しやすくなっていたと考えられる。